

学習指導要領の改訂等について

外国語教育が変わります！

「小学校」では2020年度から…

3、4年生から「外国語活動」が新たに始まります。

- ・ 授業時数が週1コマ(年間35単位時間)増加します。
- ・ 「聞くこと」「話すこと」を中心に、外国語に慣れ親しみます。

【Check!】

これまでは、5、6年生のみ、「外国語活動」を週1コマ程度実施

5、6年生では「教科」になります。

- ・ 授業時数が週1コマ(年間35単位時間)増加します。
※これまで「外国語活動」が週1コマ → 「外国語科」が週2コマに
- ・ 段階的に「読むこと」「書くこと」が加わります

※2018、2019年度は、移行措置期間です。

- ・ 3、4年生は、新たに15単位時間を確保し、外国語活動を実施します。
- ・ 5、6年生は、新たに15単位時間を加え、外国語活動に加えて外国語科の内容を扱います。
(ただし、移行期間中の特例として、15単位時間を限度として総合的な学習の時間を減ずることができます。)

外国語教育が変わります！

「中学校」では2021年度から・・・

- **授業は外国語**で行うことが基本となります。
- **対話的な活動や、実際に活用する言語活動を重視します**

【Check!】

授業時数は変わりません。
(全学年で週4コマ程度、教科の中で最多)

「高校」では2022年度から・・・

- 「聞く」「読む」「話す(やり取り・発表)」「書く」、を総合的に学び、発信力を高めます。

「大学入試」では2020年度から・・・

- **外部検定試験**を活用し、「読む」「聞く」「話す」「書く」の**4技能が評価**されます。

小学校外国語への支援

1. 「量」の支援

加配教員

- **専科指導**や**TT**により学級担任をサポート
- 校内研修や他教員への指導助言、ALTとの連携等の中心的役割

JET-ALT

- ネイティブ人材の配置により、生きた英語の提供や、児童生徒へのきめ細やかな支援を実現
- **地方交付税措置による財政上のサポート**
 - ・JETプログラムコーディネーターの配置についても地方交付税措置

JET以外のALT

- 専門性の高い非常勤講師や、英語が堪能な外部人材が支援員として授業等に参画
- 「補習等のための指導員等派遣事業」を活用すれば、**1/3を財政補助**

2. 「質」の支援

■ 「英語教育推進リーダー」養成研修

- ・毎年200人、平成30年度までに1,000人
- ・リーダー → 各地域の中核教員 → 全小学校教員へと普及

■ 強化地域拠点の指定など、先進的な取組の促進

■ 教員養成課程のコアカリキュラム開発・普及

3. 教材の開発

■ ①児童用冊子、②教室用デジタル教材、③教師用指導書等を開発

- ・年間指導計画例・学習指導案等も含む
- ・移行措置(H30、31)にも対応

■ 全都道府県・市区町村教育委員会および小学校の全担当教員に配布

- ・H30から先行実施を希望する全小学校の児童に配布

■ 研修用資料も作成し、ホームページで公表

外国語教育の抜本的強化のイメージ

CEFR

B2

(英検準1級)

B1

(英検2級)

A2

(英検準2級)

A1

(英検3級
~5級)

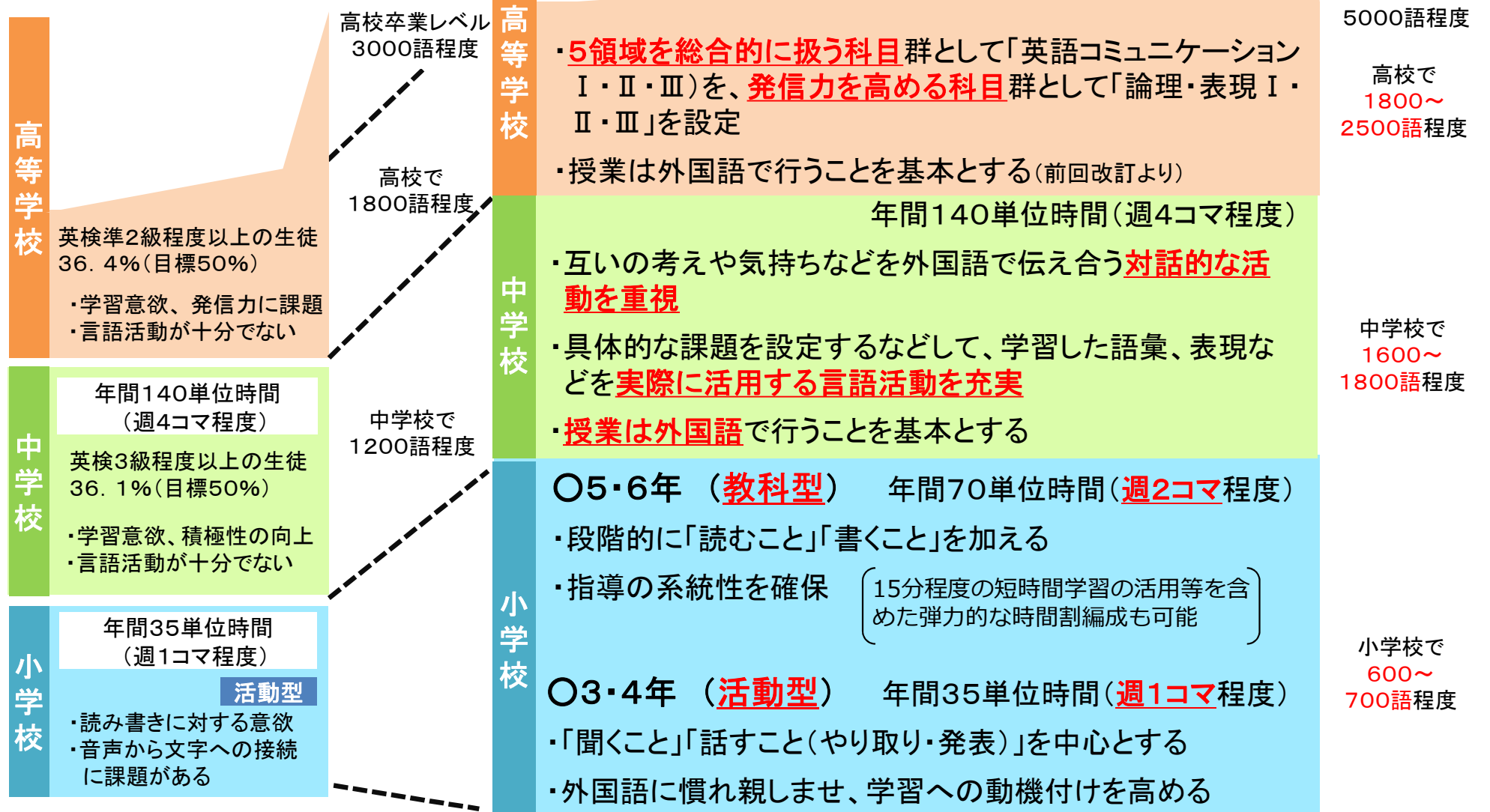
現状

- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分

改善・充実

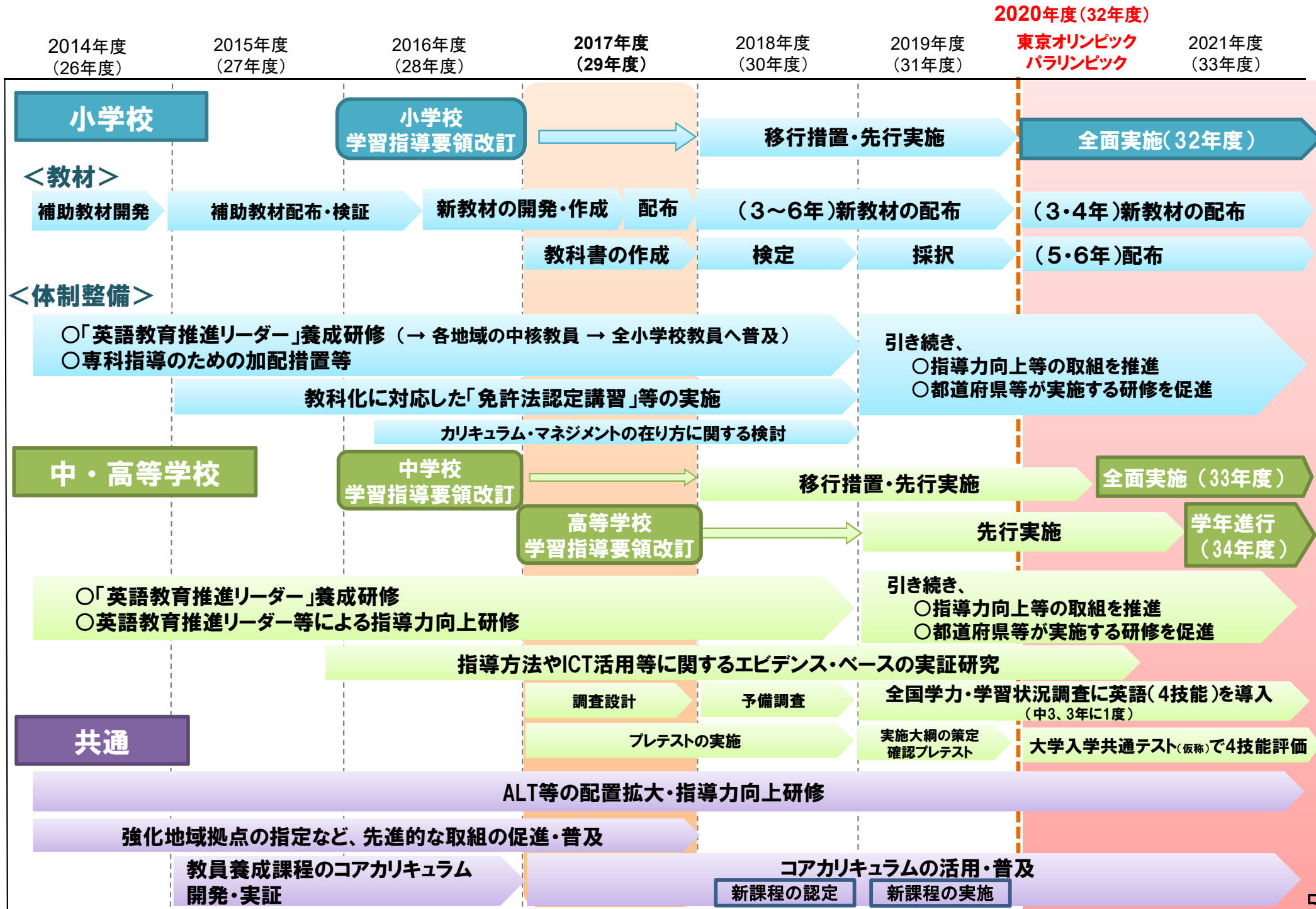
新たな外国語教育

「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準(CEFR※)を参考に、**小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)別の目標を設定**



※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

外国語教育改革のスケジュール(イメージ)

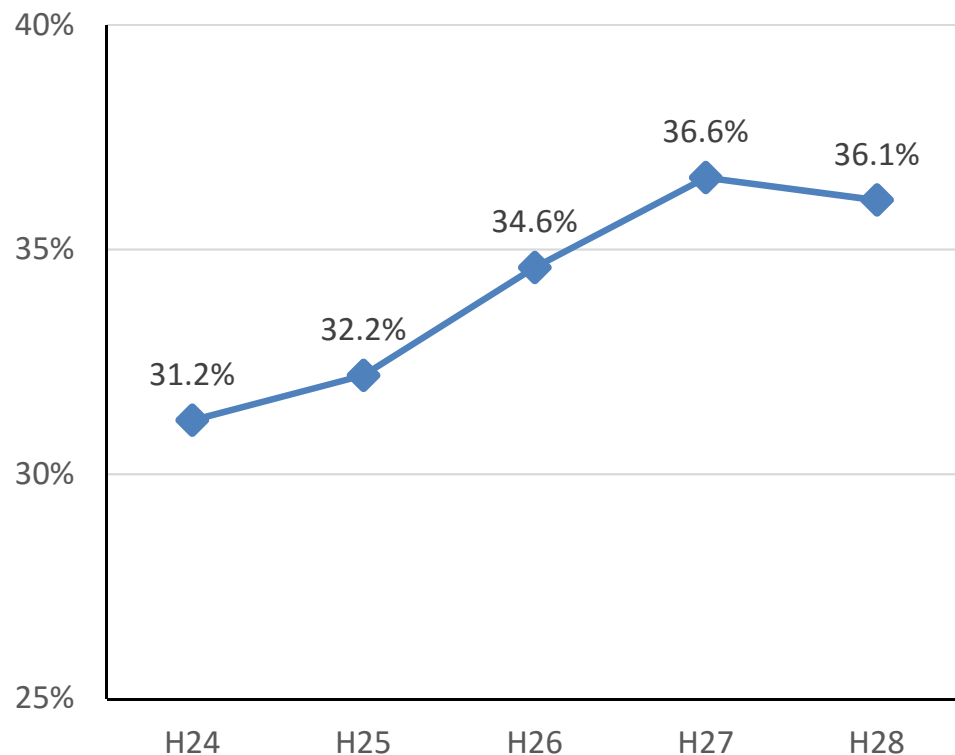


中学生・高校生の英語力

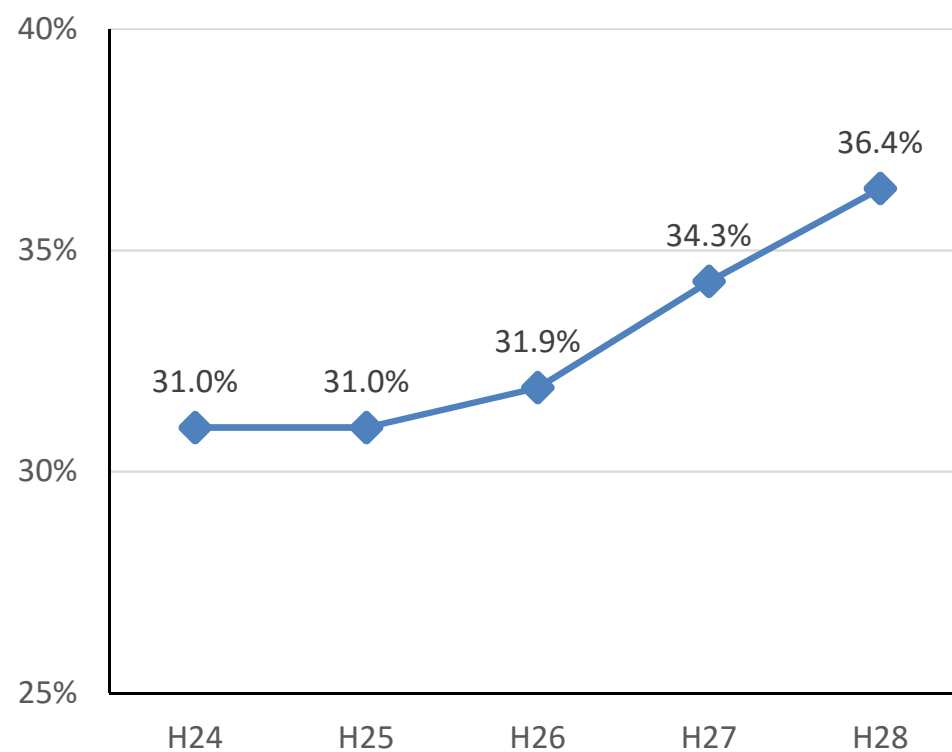
○ 英検 3 級程度以上の中学生、英検準 2 級程度以上の高校生の割合はともに増加傾向

出典：平成28年度「英語教育実施状況調査」

中学生
(英検3級程度以上)



高校生
(英検準2級程度以上)



※第2期教育振興基本計画では、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高校生の割合を50%以上とすることを目標としている。

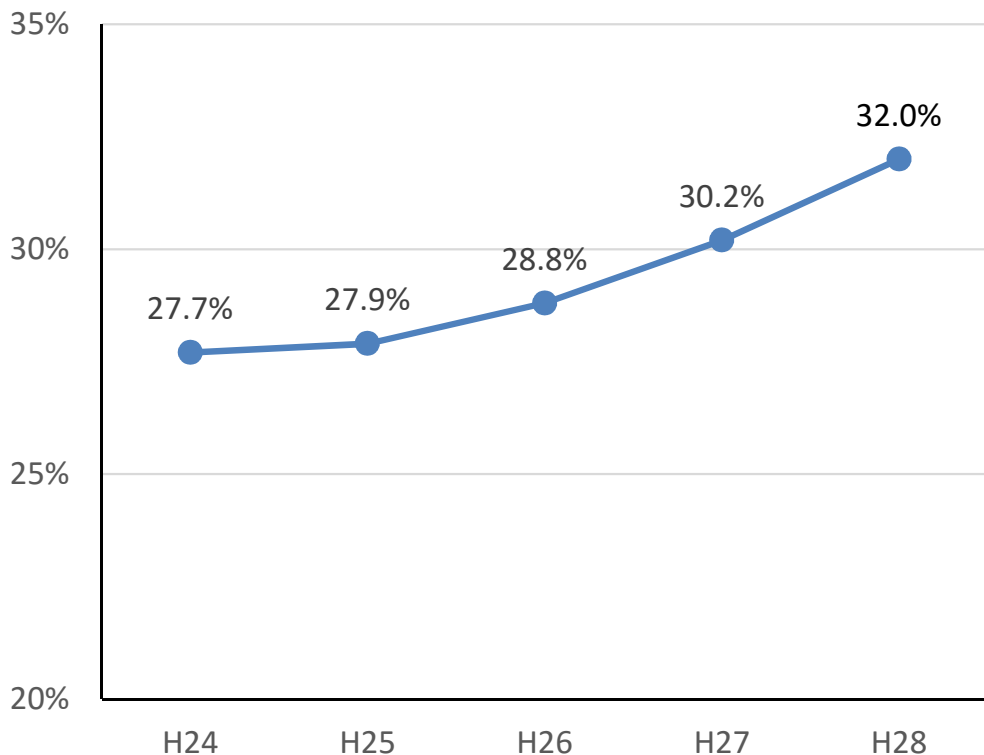
※それぞれ、英検3級、英検準2級以上の英語力を有すると担当教員が評価した生徒数を含む

英語教員の英語力

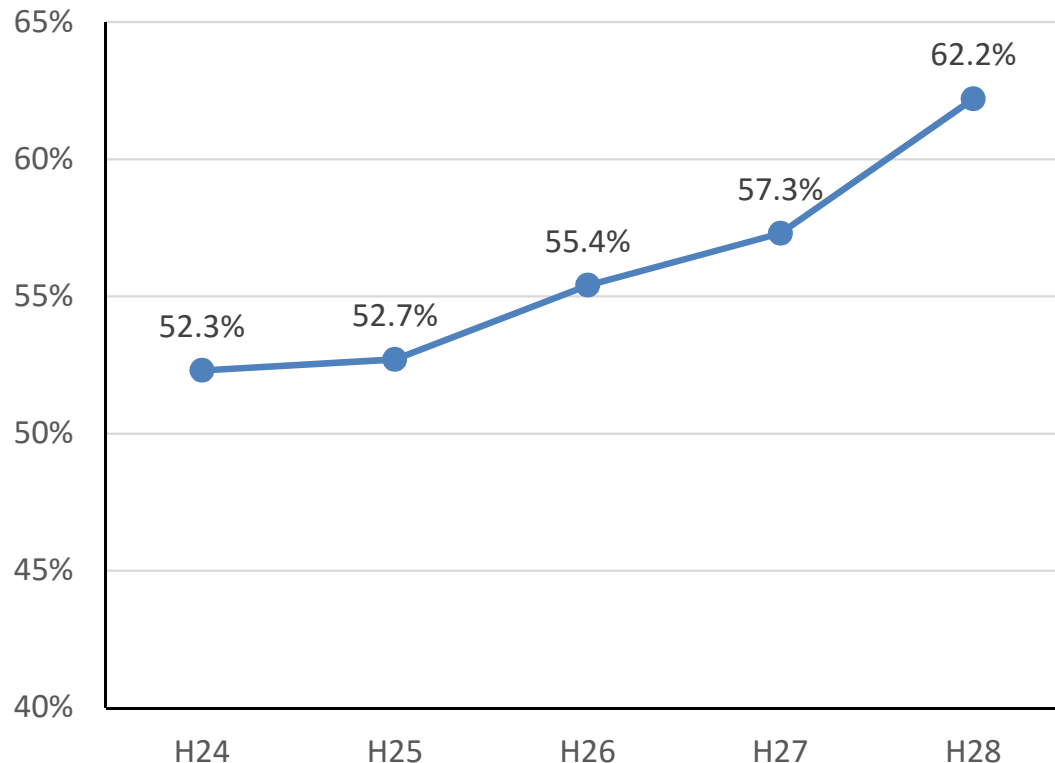
- CEFR B2レベル相当以上のスコア等を取得している英語担当教員の割合は、中学校、高校ともに増加傾向

出典：平成28年度「英語教育実施状況調査」

中学校 英語教員
(CEFR B2レベル相当以上)



高等学校 英語教員
(CEFR B2レベル相当以上)



※第2期教育振興基本計画では、英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上を達成した英語教員の割合を、中学校50%以上、高等学校75%以上とすることを目標としている。

日本の高校生の英語の課題

平成27年度 英語力調査結果（高校3年生）の速報（概要）

日本の高校生の英語力は、依然として4技能全てに課題があり、特にスピーキングとライティングにおいて課題が大きい。

一方で、4技能いずれにおいても、A1レベルの人数の割合が減少し、A2レベル以上が増加するなど改善がみられる。

- ・リーディング：+7. 3ポイント
- ・リスニング：+4. 9ポイント
- ・ライティング：+6. 9ポイント
※無回答の割合が減り、得点者は10%以上増加している。
- ・スピーキング：+0. 5ポイント
※平均点は上昇したが、依然として課題が大きい。

Reading						Listening					
CEFR	得点	平成26年度		平成27年度		CEFR	得点	平成26年度		平成27年度	
		人数	割合	人数	割合			人数	割合	人数	割合
B2	320	14		30	0.1%	B2	320	55	0.1%	123	0.2%
	310	3		14		B1	310	18		56	
	300	7	0.0%	35	0.1%		300	30		62	
	290	11		41			290	29		77	
	280	34		51			280	51		90	
270	36		73		270		67	1.2%	176	2.1%	
260	47	1.2%	122	2.0%	260	82		172			
250	82		175		250	120		238			
240	108		250		240	158		342			
230	188		347		230	219		414			
220	272		503		220	316		607			
210	404		730		210	444		751			
200	556		1007		200	562		1046			
190	854		1365		190	835		1377			
180	1204		1957		180	1043	20.3%	1770	24.2%		
170	1707	23.5%	2580	29.9%	170	1500		2241			
160	2367		3648		160	1992		2835			
150	3324		5063		150	2790		3683			
140	5031		7144		140	3857		4700			
130	7989		9963		130	5268		6111			
120	11631		12721		120	7526		7728			
110	12399		12821		110	8718		9265			
100	740		4486		100	8936		9325			
90	4663		4891		90	7788		8611			
80	1813		2038		80	5734		6794			
70	598	75.3%	696	68.0%	70	3449	78.4%	4289	73.6%		
60	206		240		60	2110		2594			
50	75		105		50	913		1299			
40	50		35		40	391		642			
30	18		35		30	186		331			
20	1		1		20	103		144			
10	0		0		10	94		147			
0	282		332		0	332		529			
平均	126.7		131.9		平均	117.1		120.7			
調査対象	65,711		78,569		調査対象	65,711		78,569			

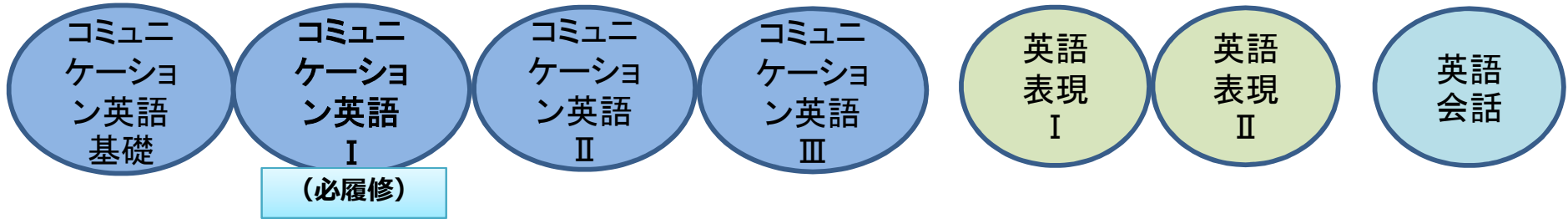
Writing						Speaking					
CEFR	得点	平成26年度		平成27年度		CEFR	得点	平成26年度		平成27年度	
		人数	割合	人数	割合			人数	割合	人数	割合
B2	140	0		0	0.0%	B1	14	166	1.0%	211	1.2%
	135	0		1	0.0%	A2	13	193		239	
	130	0		0			12	330	9.5%	390	9.8%
125	2		2		11		418		422		
120	6		18		10	559		611			
115	10	0.3%	46	0.7%	9	621		748			
110	59		179		8	718		905			
105	101		288		7	896		1026			
100	306		679		6	1143		1168			
95	420		726		5	1602		1569			
90	829		1,370		4	1085	89.5%	1028	89.0%		
85	737	10.7%	1,577	17.2%	3	1,629		1,601			
80	1,465		2,130		2	1,444		0			
75	1,525		3,515		1	2816		3,918			
70	1,752		3,563		0	2,210		3,149			
65	1,668		4,518		平均	4.2		4.3			
60	2,169		3,709		調査対象	15,632		16,985			
55	1,876		4,130		0点	2,210	14.0%	3,149	18.5%		
50	2,400		3,651								
45	2,039		2,435								
40	2,346		3,208								
35	1,940		2,234								
30	2,441	89.1%	2,668	82.1%							
25	2,045		2,861								
20	2,226		3,551								
15	2,151		4,621								
10	2,529		12,844								
5	2,889		0								
0	29,978		14,303								
平均	24.9		37.5								
調査対象	65,904		78,827								
0点	20,059	30.4%	14,303	18.1%							

※平成27年度のスコアは、平成26年度と共通の尺度にするため「等化」を行っている。(等化とは、同一の仕様に基づいて開発される問題項目の内容が異なる複数のテスト間で、どのテストを受験しても結果が同じ尺度上の得点で表現され、異なるテストの受験者間で得点を比較することを可能にする統計処理を指す)

なお、「書くこと」「話すこと」において、人数が表れていない得点帯があるが、これらは等化の結果、得点が小数点以下を含んだ状態で算出され、度数分布を作成した際に表示しない得点帯があるためである。

高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成

現行外国語科目



課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- ・英語の学習意欲に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

育成を目指す
資質・能力等

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の総合型(必修科目を含む)の科目を核とする

発信能力の育成をさらに強化する

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を総合的に育成(受信・発信のバランス)
- ・明確な目標(英語を用いて何ができるようになるか)を達成するための構成・内容
- ・複数の力を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着(高等学校への橋渡し)を含む。

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ、エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

改訂の方向性(案)

Ⅰ↓Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化